

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年 1月 4日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

ご遺族が語りあうサロンの開催

活動団体名： 国立大学法人 大分大学医学部

活動者（助成申請者）名： 橋本 理恵子

ご遺族が語りあうサロンの開催

I. 取り組みの背景

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターは、厚生労働省の委託事業として、全国のがん患者の遺族等約 4,800 名を対象に、患者が亡くなる前に利用した医療や療養生活の実態について予備調査を行っている。その結果、人生の最終段階においては、医療者が苦痛を取り除こうと速やかに対応することで、医療に対する満足度が高い一方で、必ずしも全ての人の苦痛が十分に取除かれていない現状が示唆されている。つまり、大切な人生の最終段階の時間を、可能な限りその人が望むようにより良く過ごすための支援はご遺族のグリーフケアにつながる重要な視点であると考えられる。わが国において看取りの場は、拠点病院以外の病院が約 61%を占めており、在宅が 10%未満にとどまっている現状である。看取りの場のいかにかわらず、死別後、遺族の約 90%は何らかの心残りを感じているといった報告があり、ご遺族は、大切な人を看取る体験において、介護による疲労に加え、精神的な負担やつらさを抱えていることが推測される。このような状況においては、家族が死別悲嘆に伴うグリーフワークを行なうことを妨げてしまうことが懸念される。死別に伴う心残りを完全になくすことはできないが、大切なご家族を看取ったご遺族に対しサロンを開催することで、ご遺族にとって、がん患者との闘病生活、看取りまでのプロセス、看取り、看取り後の生活に及ぶまで語り合う機会となり、同じ体験をした方々からピアサポートを得る機会とすることができる。さらに、医療者にとっては、ご遺族の思いを知ることで、がん患者とその家族の闘病における支援の示唆が得られるだけでなく、グリーフケアを担っていく医療者に対する支援の方向性を見出すことになると考える。

II. 目的

大切な人をがんで看取ったご家族（遺族）が、看取りまでのプロセス、看取り、看取り後の生活、大切な人との思い出について語ることで、ご遺族にとってピアサポートとなるだけでなくグリーフケアになる機会とする。

III. 方法

1. 対象者：がんで大切な人を看取った遺族（A 県内の一般市民）
2. プログラム内容：
 - ①ご遺族同士のグループディスカッション
 - ②大切な人への思い出の手紙作成
 - ③お抹茶でほっこり癒しのカフェ
3. 会場：JCOM ホルトホール大分会議室

IV. 評価方法

無記名自記式質問紙によるアンケートを作成しサロンにて配布を行い、出口に設置した回収箱にて回収を行う。調査項目は、属性、サロンの参加理由、サロンの内容の効果・満足度、今後の参加希望などとした。

V. 活動の内容・実施経過

ご遺族が語りあうサロンは、「がんで大切な人を看取ったご遺族が語るカフェ」をテーマに企画内容を

①カフェをしながらご遺族同士のグループディスカッション、②大切な人への思い出の手紙作成とした。しかし、COVID-19 の影響を考慮し、会場を広く確保し、④ご遺族同士のグループディスカッション、②大切な人への思い出の手紙作成、③お抹茶でほっこり癒しのカフェに分け、カフェをしながらディスカッションすることがないように配慮した。広報は、規模を縮小し、医療機関、施設、訪問看護ステーション、患者会など240件にポスター・チラシの郵送を行い、市報、新聞、地域の会誌への掲載を通して参加者を募った。地域貢献活動であり、大分県看護協会に協賛を得た。COVID-19 対策として、会場入り口で参加者に問診票の記載を求め、健康状況を把握した上で参加とした。

VI. 活動の成果

参加者は、事前参加申し込みが5名、当日1名であった。参加者にアンケート質問紙の配布を行い、回収数は6名（回収率100%）で、すべて有効回答であった。参加者の内訳は、男性4名（66.7%）、女性2名（33.3%）であった。参加者の年齢は、30歳代1名（16.7%）、40歳代1名（16.7%）、50歳代1名（16.7%）、60歳代1名（16.7%）、70歳代1名（16.7%）、80歳代以上1名（16.7%）であった。参加動機は、ポスター・チラシを見た方が4名（66.7%）、知り合いから聞いた方が1名（16.7%）、新聞広告・市報を見た方が1名（16.7%）であった。参加者（ご遺族）が看取った方は、配偶者・パートナーが4名（66.7%）、ご両親が1名（16.7%）、配偶者・パートナーとご両親が1名（16.7%）であった。看取りからの期間は、1年未満が4名（66.7%）、1年～2年未満が1名（16.7%）、2年～5年未満が1名（16.7%）であった（表1）。サロンの満足度は、満足0名（0.0%）、まあまあ満足2名（33.3%）、あまり満足でない3名（50.0%）、満足でない0名（0.0%）、未回答1名（16.7%）あった（図1）。満足、まあまあ満足の理由では、「同じような立場の人の話を聞くことが出来て良かった」「始め意見が出なくて皆さんも口をつぐんでいた。語りの言葉も小さく聞きづらかったが大きな輪になって少しは意見も出てきた」という意見が聞かれた。一方、あまり満足でない、満足でない理由としては、「会の進行、運営の目的が明確でなかった」という意見があった。今後の参加希望は、希望する3名（50.0%）、希望しない2名（33.3%）、どちらともいえない1名（16.7%）であった（図2）。参加を希望する理由としては、「それぞれの環境もあることもあり何でも話し合える場が欲しかった」「カウンセラーや看護師に今の寂しい、辛い、悲しい気持ちを掃出し助言が頂ける内容であれば」という意見が聞かれた。希望しない理由としては、「話をするだけでなく看護師などによるカウンセリングがほしい」という意見があった。参加者が、看取りの過程において医療者に希望する支援として、「グリーフケアを受けられる、心理カウンセリングの希望」「忙しい中で申し訳ないが、心に残る支援をしてもらいたい」「患者本人に対してのケアはある程度確立していると思うが、遺族に対してのケアの体制が不十分だと思うので、その体制を構築してほしい」という思いが聞かれた。看取りの過程において医療者のよかったかわりでは、「看護師に、後に色々つらい気持ちを聞いてもらったこと」「その都度声かけてもらっていた。それを認めていないことがわかった」「入院中、迷惑をかけたかもしれないが、いろいろ取り計らっていただいた」「笑顔と親身になってくれる人が欲しい」「苦痛を和らげる薬の使い方」などであった。

運営スタッフは、医療機関で看護実践を行っている看取り経験が豊富な看護師、看護師を目指す大学生、大学教員であり、それぞれの立場からご遺族の支援について深く考える機会となった。特に、看護師を目指す学生からは、ご遺族の話を聴きリアルな経験に触れることができ、既習の学習とリンクさせ有意義な体験とすることができた。臨床の看護師は、ご遺族が、どのような気持ちで日々の生活を送ってい

るのか知ることができ、臨床でのグリーフケアの理解が促進され有効であったといえる。

表 1：参加者の概要

n=6

		人数	%
参加者の性別	男性	4	66.7
	女性	2	33.3
年齢	30 歳代	1	16.7
	40 歳代	1	16.7
	50 歳代	1	16.7
	60 歳代	1	16.7
	70 歳代	1	16.7
	80 歳代以上	1	16.7
参加動機	ポスター・チラシを見て	4	66.7
	知り合いから聞いた	1	16.7
	新聞広告・市報を見て	1	16.7
参加者（ご遺族）が看取った方	配偶者・パートナー	4	66.7
	ご両親	1	16.7
	配偶者・パートナーとご両親	1	16.7
看取りからの期間	1 年未満	4	66.7
	1 年～2 年未満	1	16.7
	2 年～5 年未満	1	16.7

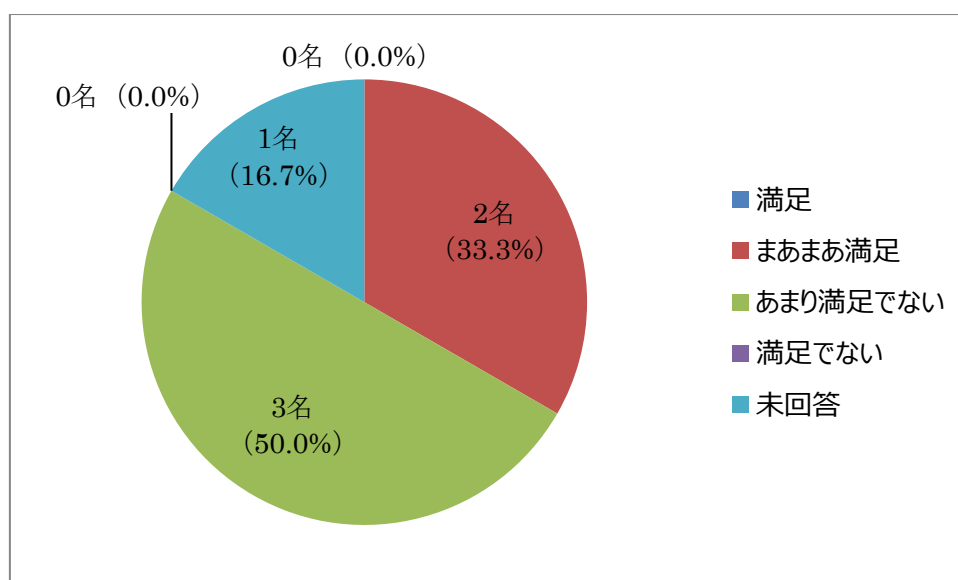


図 1 サロンの満足度

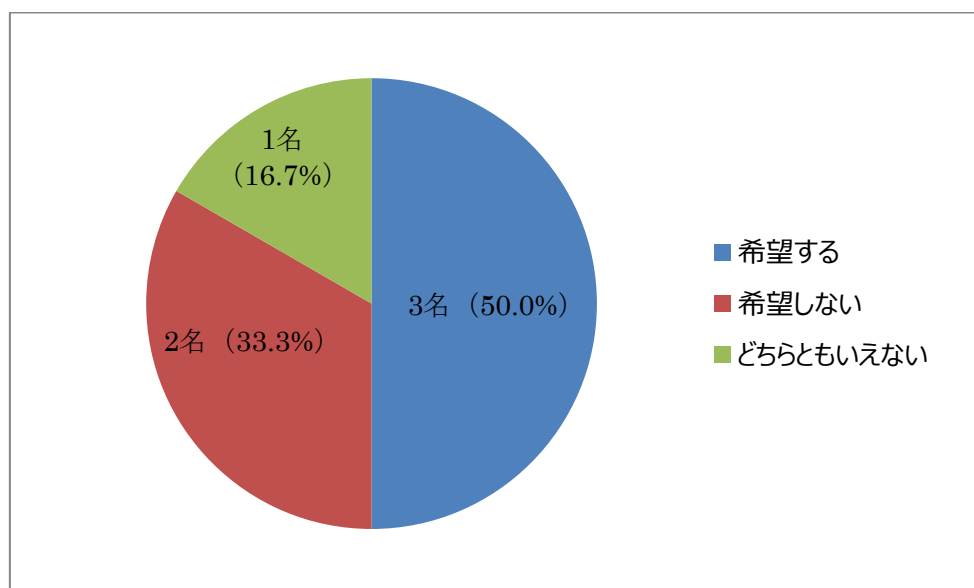


図 2 今後の参加希望

VII. 今後の課題

コロナ禍での企画であり、ソーシャルディスタンスを保ち、会場を分けて企画を進めたことで、参加者同士の自由な語りの場が制限されピアサポートの場とすることは難しかった。参加者は6名と少なく、様々な年代層の方の参加であった。また、看取った対象が配偶者・パートナーなど異なっていたことや、看取りからの期間の違いがあり、ご遺族、個々の状況を踏まえた支援には至らなかったといえる。今後、ご遺族のニーズを踏まえた会の開催となるよう内容の検討や工夫を行っていく必要がある。

VIII. 活動の成果等の公表予定

2021年5月29日（土）～6月2日（水）に開催される第6回日本がんサポーターケア学会で発表予定である。

謝辞

この度の活動にあたりご協力を頂いた、大分中村病院看護部そして助成を頂いた公益社団法人笹川保健財団に心から感謝いたします。

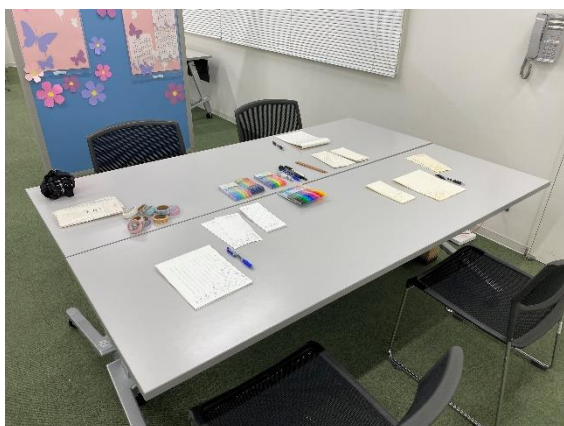
《資料：写真》



【サロンの案内】



【会場の様子】



【会場の様子】



【会場の様子】



【受付の様子】



【受付の様子】



【ディスカッションの様子】



【ディスカッションの様子】



【手紙コーナーの様子】



【手紙コーナーの様子】



【お抹茶コーナーの様子】



【お抹茶コーナーの様子】



【お抹茶コーナーの様子】



【お抹茶コーナーの様子】

《資料：チラシ》

がんで大切な人を看取った ご遺族が語り合う カフェ

2020 **11/15** 日

J:COM ホルトホール大分
201・202 会議室 (2 階)

参加費無料
(事前予約制)

ご遺族が語り合うカフェは、がんで大切な人を看取ったご家族(遺族)の方を対象に、同じような体験を持つ方向士で語り合う場です。もちろん他の方の話を聞くだけでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

- 開催時間：14:00～16:30 ※開催時間内であれば出入りは自由です。ご都合のよい時間にご参加ください。
- 対 象：一般市民 ※大切な人をがんで看取ったご遺族が対象となります。
- 定 員：30名 ※当日参加も可能ですが、可能な限り事前参加申し込みをお願いします。
- 申込方法：FAXまたはメールにてお申し込みください。 ※詳しくは裏面をご覧ください。
- 申込締切日：2020年11月11日(水)
- 新型コロナウイルス感染予防対策について
開催内容の変更や中止など無大な変更が生じた場合は、速やかにメールまたは電話にてご案内いたします。会場入室前の手指消毒、マスクの着用をお願い致します。また、体調不良の方は参加をご遠慮ください。

**がんで大切な人を看取った体験・
思い出についてお話してみませんか**

がんで大切な人を看取った方は、悲しみだけでなく、様々な想いをお持ちのことでも少なくありません。同じ経験を持つご遺族が集い、自分の体験や想いを語り合い、これからのことを一緒に考える時間を共有しませんか？

**大切なあの人に手紙で想いを
伝えてみませんか**

一緒にいた時はなかなか言えなかった感謝の気持ち、看取った後に伝えたくったこと、もちろん世間話や近況報告でも、“大切なあの人へ伝えたい言葉”を手紙にしてみませんか？

主 催：大分大学医学部看護学科実践看護学講座 成人看護学 橋本理恵子
共 催：社会医療法人恵愛会 大分中村病院
後 援：公益社団法人 大分県看護協会、大分合同新聞社、OBS 大分放送
助 成：公益財団法人 笠川保健財団 地域啓発活動助成
開催責任者：大分大学 橋本理恵子、大分中村病院看護部 舩部千鶴(看護部長)、小島鶴子(副看護部長)